令和６年「まほろば会初詣」資料

すぎなみの森に佇む寺社を詣でる（阿佐ヶ谷神明宮・馬橋稲荷神社・堀之内妙法寺）

令和６年１月１3日（土）

まほろば会

はじめに

　新春初詣は、秋の見学旅行と同様４年ぶりですね。前回の初詣会は「佃島・豊洲新市場散策」と銘打って築地本願寺に集合し、佃島や豊洲などの東京湾岸エリアの見学をしました。
その後すぐに「コロナ禍」で、まほろば会の各行事がことごとく中止（あるいはリモート企画）になりました。
　まほろば会の行事としては、昨年11月17日（金）～18日（土）秋の見学旅行「琵琶湖周辺の旅」に次いでの企画です。
　今回の初詣先は、「すぎなみの森に佇む寺社を詣でる」と「ご案内」でもPRした通り、阿佐ヶ谷・高円寺界隈の3か所（阿佐ヶ谷神明宮・馬橋稲荷神社・堀之内妙法寺）の寺社を参拝します。
　午後からは、場所を変え新宿にて久しぶりの新春懇親会を開催します。

　阿佐ヶ谷神明宮は以前は天祖神社と呼ばれていましたが、平成になってから神明宮と呼称を変更し、大改修を経て今日に至っております。皇室の御祖神であり太陽神でもある天照大御神をお祀りしています。馬橋稲荷神社は閑静な住宅街に鎮座し、地元で「お稲荷さん」の名で親しまれています。
最後に参拝する堀之内妙法寺は落語「堀之内」にも登場する日蓮宗の立派なお寺です。
　いずれも私の実家近くにある慣れ親しんだ地元密着の寺社です。お楽しみください。　幹事　上原

阿佐ヶ谷神明宮

御祭神　天照大御神

皇室の御祖神であり、太陽神でもある天照大御神(アマテラスオオミカミ) をお祀りしています。天照大御神は、我が国で最も貴く、国家の最高神とされています。 御神名はいくつかの表記法があり、『古事記』においては天照大御神、『日本書紀』においては天照大神と表記されております。一般には天照大御神（アマテラスオオミカミ）の表記が最も親しまれています。

国土の創造神であるイザナギが、黄泉の国に下ったイザナミと別れ、黄泉の穢れを洗い流した際に、左目を洗ったときに誕生したとされています。このとき右目から生まれたツクヨミ、鼻から生まれたスサノオと共に、三貴子と呼ばれる。このときイザナギは天照大御神に高天原を治めるように指示し、最高神となりました。

阿佐ヶ谷神明宮の成り立ち

寛政12年（1800年）に著された『江戸名所図会』によると、日本武尊が東征の帰途阿佐谷の地で休息し、後に尊の武功を慕った村人が旧社地（お伊勢の森と称される現在の阿佐谷北5丁目一帯）に一社を設けたのが当宮の始まりといわれております。 建久年間（1190～1198年）には土豪横井兵部（一説には横川兵部）が伊勢神宮に参拝したおり、神の霊示を受け、宮川の霊石を持ち帰り神明宮に安置したと伝えられ、この霊石は今も御神体として御本殿の奥深く鎮っております。 江戸時代から庶民の信仰が篤く、その一端を示す「内藤新宿仲下旅籠中仲下茶屋中」の文字が刻まれた文政十一年（1828年）の銅製の三本御幣が奉納されています。

阿佐ヶ谷について

地名の由来は桃園川の浅い谷地であった事に由来しているとされ、中世には阿佐ヶ谷氏と呼ばれる一族が支配した阿佐ヶ谷村と呼ばれていました。 阿佐谷の地名は伝統的には「阿佐ヶ谷」なのですが、昭和38年に住居法により、「阿佐谷」に統一されました。そのため、住所としては「阿佐谷」、駅や一般名称としては「阿佐ヶ谷」が使用されています。 大正時代の関東大震災後から昭和にかけて都心や下町から井伏鱒二をはじめ、与謝野晶子、太宰治、青柳瑞穂、伊馬春部、三好達治、火野葦平、徳川夢声など文人が住み、阿佐ケ谷文士村と言われました。今でも書店・古書店が多く文化の高い町であります。

阿佐ヶ谷神明宮の現在

平成二十一年秋に「平成の大改修」が無事竣工し、神明作りの御殿・神門、新しい祈祷殿・能楽殿などが誕生致しました。 境内地は約3000坪のうっそうとした森をなしており、シイ、カシ、クス、ケヤキ、イチョウ等の巨木も多く東京都内最大級の伊勢神宮勧請の神社であります。
一方ＪＲ阿佐ヶ谷駅から徒歩2分の交通至便の地にあるため、年間を通し数十万人の参拝者で賑わいます。 また近年は骨董市、植木市、さらに能や伝統芸能の奉納、或いは杉並区主催のジャズストリートの会場になるなど、地域のコミュニケーションの場として広く親しまれております。
中でも豊年満作を祝い神に感謝するものとして例大祭に奉納される「阿佐ヶ谷囃子」は、江戸時代末期からの伝統を誇り、区の無形文化財に指定されております。なお、例大祭には氏子内14カ所の御幸所から各神輿が集結し、一斉に氏子巡幸する姿は誠に壮観であり杉並の風物詩のひとつとなっております。 明治以降「天祖神社」と変更されていた社号も、平成二年より江戸時代からの名称である「神明宮」に復称致しました。

馬橋稲荷神社

馬橋稲荷神社のご案内

鎮座地

東京都杉並区阿佐谷南二丁目四番四号

主　神

宇迦之魂神	うかのみたまのかみ	（稲荷神社）
大麻等能豆神	おおまとのづのかみ	（御嶽神社）

相　殿

伊弉册神	いざなみのかみ	（白山神社）
美都波能賣神	みずはのめのかみ	（水神社）
菅原道真朝臣	すがわらみちざねあそん	（天神社）

末　社

美都波能賣神	みずはのめのかみ	（水神社）
市杵島姫神	いつきしまひめのかみ	

斎霊殿

戦没者並びに神社関係物故者

由緒と沿革

鎌倉末期　馬橋稲荷神社の創建は鎌倉時代末期と言い伝えられているが、その詳細は明らかでない。

天保二年卯二月上旬～天保三年辰正月三日

天保二年卯二月上旬「当村鎮守稲荷官金勧化連名帳馬橋村」によれば当時の住民、大谷佐六他五十三名、連名を以て官金の寄附あり、是を以て京都に使者を向け、白川神祇伯家の御役所に上申し、御神体及び御神号の宣下を乞いし処、天保三年辰正月三日、正一位足穂稲荷大明神の御神号を賜り、御勧遷の許可ある。ここを以て勧遷の式を厳かに執行せられた、と語り伝えられている。

明治40年11月28日　当時馬橋村に点在せる社祠、御嶽神社、白山神社、天神社、水神社を、同村中央にある稲荷神社に合祀する。当時は五社神社と呼ばれた事もあった。

昭和2年～13年　昭和2年、村社に列し、昭和10年頃より社殿建築を計画し、昭和13年11月、茅葺の旧社殿から、白木の香も新たな総檜入母屋流造りの拝殿、幣殿、祝詞殿が完成し、正遷座祭がおこなわれた。

昭和25年3月　境内に斎霊殿を新設する。日清、日露、太平洋戦争に散った氏子中の戦没者の御魂、並びに神社関係物故者の御魂、合わせて500余柱の御霊を祀る。春秋2回慰霊祭を斎行する。

昭和40年10月1日　住居標示の改正によって、馬橋の地名がなくなり、梅里、高円寺、阿佐谷となる。「馬橋」の地名を惜しみ、後世に伝えようと、神社名を改め馬橋稲荷神社と改称する。同時に神奈川県真鶴産の本小松石（6トン高さ3m）の自然石に社名を刻んだ社号碑を参道入口に建立する。

昭和50年3月2日　鎮座700年記念事業として随神門を完成する。向かって、右に豊磐間戸命、左に奇磐間戸命二柱の戸護りの神像を祀り、中央天井に、直径75cm、都内最大の開運鈴を吊るしている。

昭和62年6月15日　天皇陛下御在位60年を記念して、神楽殿を改築する。間口2間半の総檜入母屋流れ造り『舞殿』が落成する。現在、例大祭のお神楽や、春秋の芸能鑑賞会（薪神楽（たきぎかぐら）を始めアルゼンチンタンゴ・津軽三味線）など趣向をこらした催しも行われている。

平成5年9月3日　平成の御大典記念として、社務所を改築。重量鉄骨2層建築、切り妻流れ造りの大屋根の『参集殿』が完成した。この施設は社務所・会議室以外にも多目的に使用でき、地域の様々なイベントや結婚式にも利用されている。また、同時に境内の整備も実施され、正参道、中鳥居を建立。高さ7メートルの御影石造りの台輪稲荷鳥居。旧の中鳥居は北参道に移設された。

平成8年12月14日　正参道正面に一の鳥居が建立される。この鳥居は樹齢400年の檜葉の材を使用し、高さ8メートルの朱塗り台輪稲荷鳥居で、この鳥居と中鳥居の完成により、当社大神輿の参道巡幸が可能となった。また、この工事に合わせ入り口付近に防火貯水槽を設置し、地域防災強化にも役立てている。

平成13年2月12日　正参道随神門右手前に手水舎を新築する。木曾檜を材として使用し切り妻流れ造りの水舎に、四国より取り寄せた『伊豫の青石』重量 5トンの自然石から絶えず清水が流れ落ちている。社殿手前左にあった旧の手水舎は東参道に移築された。

平成26年8月　本殿覆殿（おおいでん）建立。

平成27年9月　神社社務所附属施設が完成し、それに伴い、東参道を整備。保存していた天保２年の鳥居を再建した。

堀之内妙法寺

堀之内妙法寺の由来

堀之内除厄け祖師の由来

當山の由来は、今を去る事三百数十年前、元和（１６１５～１６２３）の頃、元真言宗の尼寺であったが、覚仙院日逕上人は老母妙仙院日圓法尼の菩提のため、日蓮宗に改宗し、老母を開山とし、日逕上人自らは開基第二祖となられた。山号は開山日圓上人にちなみ日圓山とし、寺号を妙法寺と号した。

当初は、目黒碑文谷の法華寺の末寺となりましたが、元禄１２年（１６９９）３月、身延山久遠寺の直末となりました。この時、法華寺から除厄け日蓮大聖人の霊像を お迎え致しました。この像があらゆる災難除けに霊験あらたかなことから人々の信仰を集め、法運隆盛をきわめて 今日に至っております。

祖師堂に安置し奉る日蓮大聖人像は、世に「除厄け祖師」と呼ばれ、江戸時代から現代に至るまで、霊験あらたかなことでひろく信仰を集めています。

除厄けやくよ　のお祖師さま（おそっさま）のいわれ

弘長元年（１２６１）日蓮大聖人が鎌倉由比ヶ浜から流罪の為、伊豆伊東に流される直前の事。

日蓮大聖人の身を案じ、お役人たちの制止を振り切った弟子の日朗上人は、やっとの思いで聖人の乗った船に近づきお供を申し出ました。

ところが、その信念に恐れをなしたお役人は逆上し、怒りのあまり櫂で腕を打ち砕き、日朗上人は波打ち際に倒れ込んでしまいました。

弟子の進言も聞き入れられる事なく、船が漕ぎ出ようとした時、「旭が東天に輝くときは、汝の無事であることを思う。日が西に照るのを見たら日蓮は伊東で無事であることを知れ・・・」とのお言葉を日蓮大聖人は残され、船は高波の沖に消えて行きました。

日蓮大聖人のお姿が見えなくなっても、日朗上人の御題目の声はいつまでも由比ヶ浜に響いていたそうです。

爾来、日朗上人は鎌倉に留まり日夜、幕府に捕らわれた大聖人の身を案じ、生き別れた由比ヶ浜にて祈念を続けられます。

何十日たった頃でしょうか・・・ある夜のこと。 不思議な光を放ち漂う霊木が、日蓮大聖人の見えなくなった沖から日朗上人の膝もとまで流れて参りました。

日朗上人はその霊木が佛天の導きと拝し、日蓮大聖人のお姿を彫刻し、その尊像に昼夜を問わず給仕し、ご無事を願いお仕えし続けました。

約壱千日を過ぎた三年後に祈りは報われ、日蓮大聖人がお戻りになられました。 日朗上人は、早速に御尊像をお見せすると、日蓮大聖人は守護の信仰に大変喜ばれ、自ら尊像開眼し、魂を込められました。

この時、日蓮大聖人が数え年４２歳だった事から、この御尊像を「除厄け日蓮大菩薩」と呼ぶようになりました。

現在、当山祖師堂に御奉安されている「除厄け祖師」がその、ありがたい御尊像です。 必ずや皆様をお護り致します。

日圓山 妙法寺（みょうほうじ）

古典落語の代表的な演目のひとつ「堀之内」の舞台・堀之内妙法寺（山田日潮貫首）。あわてんぼうの熊五郎がそそっかしい癖を信心で治そうと、厄除けの霊験あらたかな同寺のお祖師さまにお参りしようとする。その珍道中を面白おかしく語るのがこの落語で、江戸の庶民の信仰として賑わった往時の参道が偲ばれる。

落語との深い縁は、今も変わらぬ妙法寺の伝統だ。毎月23日には「堀之内寄席」という落語会が書院で開催される。「落語で有名にしてもらった恩返しとして、若手の落語家に活躍の場を提供したい」という寺の意向で始まり、回を重ねること１８０回以上。かれこれ15年以上続く名物イベントとして定着している。出演するのは二つ目と呼ばれる、真打ちになる前の若手落語家たちだ。

木戸銭は格安の５百円でお菓子とお茶が付く。もちろん赤字運営だ。それならばと、同寺の万灯講のメンバーが会場の準備や後片付けに駆けつける。寺院と檀信徒が一体でイベントを支えるのが「庶民の寺」として親しまれる妙法寺らしいところだ。江戸っ子の心意気は、寺に講中に今も脈々と息づいている。「江戸の昔から厄除けの寺として庶民に支えられて賑わってきた所ですから」と松岡教詔執事長は語る。

人には特に厄災のおそれがあるとして、身を慎まなくてはならない年齢がある。厄年のことだ。男性なら25、42歳、女性なら19、33歳が本厄年とされている。これらの年齢は身体の変わり目となる頃合いで、特に健康に注意する必要があるという医学的な根拠もあるとか。厄＝体調不良とするなら、厄除けは時代を超え、「健康」という人間の永遠の願いに通じる。笑いは健康のもとと言われるが、そう考えると厄除けの寺と落語というのはみごとな組み合わせだと思えてくる。笑いなくして健康なし。健康なくして幸福なし。笑う門には福来るということだ。人の幸せとは、このように身近なところにあるささやかなものなのだ。

笑いのひと時に憩いを求めて集まる人。厄除けの祈りに来る人。深い信仰心の拠り所として参拝する人。人それぞれだが、みんな市井の片隅で穏やかに暮らすことを願う善男善女たちなのだ。祖師の願った立正安国とは、実はこんな善男善女の抱く小さな幸せへの祈りをひとつにまとめた世界なのだろう。

昔も今もこれからも、妙法寺は庶民の信仰や願いを集め続けていくことだろう。うららかな小春日和、境内に立つとそんな思いがよぎる。

縁起・・・

元和年間（１６１５～２４）当初、碑文谷法華寺の末寺だったが、法華寺が徳川幕府の圧力で天台宗に改宗させられたことにより妙法寺は身延山久遠寺の直末に。この折りに法華寺から六老僧・日朗上人作の宗祖尊像を妙法寺に遷座。この像は日蓮聖人伊豆流罪のとき、日朗上人が鎌倉由比ヶ浜に流れ着いた霊木に聖人の姿を刻み礼拝したもの。後に聖人はこれを開眼して日朗上人に授けた。伊豆法難のとき聖人は42歳の厄年だったことから「やくよけ祖師」と呼ばれ、庶民の信仰を集めた。

参考資料

地図：阿佐ヶ谷駅～阿佐ヶ谷神明宮～馬橋稲荷神社～堀之内妙法寺

杉並区HP参照
https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/013/453/230208_2_asagayakoenji.pdf

https://www.city.suginami.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/013/453/230208_9_wadahorinouchi.pdf

- **1．日程**：2024年 **1月13日（土）10時　阿佐ヶ谷駅北口ロータリー集合**
- **※土曜日は、JR快速は阿佐ヶ谷駅には止まりませんのでご注意ください。**
- **2．見学予定地**
- **＜初詣会＞**
- **①阿佐ヶ谷神明宮**（shinmeiguu.com）阿佐ヶ谷駅から3分
- **②馬橋稲荷神社**（mabashiinari.org）神明宮から10分
- **③堀之内妙法寺**（http://www.yakuyoke.or.jp/）稲荷神社から25分
- **＜懇親会＞**
- **銀座ライオン・新宿エルタワー店**　13：00～
- 銀座ライオン 新宿エルタワー店 – 銀座ライオン（ginzalion.jp）